



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/01/14

あっさり黙示録 #48

魍魎魍魎(ちみもうりょう)の巣窟

—大バビロンへの宣告—

黙示録 18 章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏

お元気ですか。高原剛一郎です。今日は**あっさり黙示録**の 48 回目。

いよいよ **18 章**。終盤の終盤に差し掛かっているんですね。

黙示録 18 章は、時系列で預言されている黙示録の中にある 4 回の挿入の 4 番目です。

これからどのようなようになるのかを、前もって説明しているところなんですね。

18 章の中身をひと言で言うと、反キリスト帝国に対する最終判決です。

黙示録 18 章

1 その後 (のち)、私 (ヨハネ) は、もう一人の御使いが、大きな権威を持って天から下って来るのを見た。地はその栄光によって照らされた。

その後とは、**17 章**で扱っているのとは別のトピックスをこれから扱う、という意味です。

17 章では**宗教的バビロンの滅び**が預言されていましたね。

18 章では**政治的・経済的バビロンの終末、最終判決、滅び**について語るということです。

もう一人の御使いは、17 章で登場した御使いと同じ種類の別の御使い。ギリシア語の言葉遣いはそうなっています。その御使いには**大きな権威**があり、彼が地上に下り立った時、**地はその栄光によって照らされた**。神の代理として大きな権威を帯びていたんです。

彼は何をしに来たのか。反キリスト帝国に対する最終判決を宣言するのです。何と言ったのか。

2 彼は力強い声で叫んだ。「倒れた。大バビロンは倒れた。」

今日は **18 章**を 3 つのポイントで紹介しましょう。

- 1) 「倒れた。大バビロンは倒れた。」なぜ「倒れた」と 2 回続けているのか。
- 2) 大バビロンの中身は何か。大バビロンは正確には何を意味するのか。
- 3) キリストの地上再臨によって滅ぼされた大バビロンは、最終的にどうなるのか。

1) 「**倒れた。大バビロンは倒れた。**」なぜ「倒れた」と 2 回続けているのか

大バビロンは文字通り、現イラクの首都バクダッドの南方 90 キロ、北緯 32.5 度、東経 44.4 度にやがて再建される都です。昔ここに古代帝国の首都がありました。

バビロン (バビロニア) ですね。このバビロンが**艱難時代**の前に再建され、**艱難時代**の後半 3 年半に、反キリスト帝国の首都機能を果たすようになります。世界の中心はワシントンでもモスクワでも北京でもない。バビロンになる。

バビロンは都市の名前であると同時に、反キリスト帝国の支配体制そのものを表す言葉でもあるんです。例えば「プーチン大統領はこのように発表した」を「モスクワはこう発表した。」

「バイデン大統領の考えはこうです」を「ワシントンの考えはこうです。」
モスクワやワシントンに口が付いてて喋り出したわけじゃない。モスクワやワシントンを首都にしている国家権力のトップの意思を代用して、こんな言い方があるんですね。
大バビロンは反キリスト帝国の国家支配体制そのものである、と考えてください。

それが「倒れた。大バビロンは倒れた。」なぜ「倒れた」が2度繰り返されたのか。
おそらくこの時代に生きている人々は、大バビロンはどんな事があっても絶対に倒れるはずがないと確信しているからです。どんな試練が来ても、天変地異が起こっても、大バビロンのような完璧な都が倒れることはあり得ない。皆、反キリストによって信じ込まされているんです。
しかし、神様の裁きが下るとあっけなく倒れます。
倒れるを2度繰り返すことによって、「その崩壊は絶対確実だ」と強調しているわけですね。

ところで「倒れた。大バビロンは倒れた。」日本語では過去形ですね。
ギリシア語ではアオリストという時制で、決定的に倒れたという意味です。
実は、これはまだ倒れてない。倒れることがあまりにも確実なので、倒れる前に「倒れる」と宣告・宣言しているんです。

日本の裁判制度で、控訴や上告などのプロセスを経て最高裁判所が下した判決が最終判決です。
それで死刑が決定した。死刑決定の宣告と死刑実施の間にはタイムラグがありますね。
ここでは「必ず倒れる」とまず宣告しているんです。実際に崩壊が起こるのは、別の個所に預言されているんですね。

2) 大バビロンの中身は何か。大バビロンは正確には何を意味するのか

3 すべての国々の民は、御怒りを招く彼女の淫行のぶどう酒を飲み、地の王たちは彼女と淫らなことを行い、地の商人たちは、彼女の過度のぜいたくによって富を得たからだ。」

地の王たちは政治家です。この時7つの王国があって、それぞれのトップのことでしょう。
7つの王国・7人の王たちは、大バビロンに代表される反キリストの支配体制と結びつくことによって、自分の野望・野心を完全に満たしているんです。
反キリスト帝国を構成している7人の王たちは、反キリストのおかげで貪欲な欲望を完全に満たして来ました。だから、このバビロンは**政治的バビロン**です。

地の商人たちは経済人です。反キリスト帝国では、帝国に協力しなければ、だれも売ることも買うこともできません。世界経済での大成功を望む者は皆、反キリストに率先して協力します。
地の商人たちは、彼女の過度のぜいたくによって富を得た。
世界の中心である大バビロンと結びつくことによって、世界経済が一つになっていることを表しているのです。最終的に、世界は完全なグローバル経済に移行するということです。

グローバルという言葉はグローブから出来ました。グローブは地球のこと。グローバルは地球的規模のことです。経済圏が自分の国で閉ざされたら、これはマーケットとして小さいですよ。パイが小さい。でも、世界全体がマーケットならどうなりますか。自国で作れない商品が中に入って来ますね。そして、自分の国の中では売りさばけないような商品の数が、世界中で売れるじゃないですか。

グローバル経済は大きな恩恵をもたらします。なので、グローバル経済そのものが悪だと言っているわけではないんです。グローバル経済そのものを絶対悪として憎んでいるのではありません。ここでは、グローバル経済によって売り買いされるものが問題なんですね。

ぜいたくによって富を得た。これは“好色によって”と翻訳できるんです。好色という際限ない欲望を満たすために、本来金で売り買いしてはならないものまでも売買する。「欲しい！」となったら、人間でも人の命でも自由に売り買いできる。これについては次回説明します。恐るべき商品社会がやって来るんですね。

いったい、だれがそんなものを買うんでしょうか。すべての国々の民が買うんです。すべての国々の民は、御怒りを招く彼女の淫行のぶどう酒を飲み。すべての国々の民みんなが、本来いけないこと・許されないこと・人間として手を出してはならないもの、御怒りを招くような商品売り買いした。

というのは、この時の道德体系は反キリスト中心に回っているので、“人間が欲望を満たすことは絶対的に善だ”という価値観で動いているんです。もう正義も悪も、善も悪もへったくれもない。そんな世界ですよ。

そのような中で、真実を求めて真っ直ぐに生きようとするクリスチャンたちは大迫害を受けます。反キリストになびかない人たちは悲惨な目に逢うんですね。これに対して、神はいつまでも見過ごされない。最終的に裁きが下される。「倒れた。大バビロンは倒れた。」大バビロンは倒れるというわけですね。

3) キリストの地上再臨によって滅ぼされた大バビロンは、最終的にどうなるのか

2 それは、悪霊の住みか、あらゆる汚（けが）れた霊の巢窟、あらゆる汚（けが）れた鳥の巢窟、あらゆる汚（けが）れた憎むべき獣の巢窟となった。

やがて、**キリストの地上再臨**によってこの世界が一新され、**千年王国**の時代が始まります。エデンの園がもう一度復元されるような世界。今 自然界を見て慰められますが、今とはまるで様相が違う、非常に素晴らしい完全な自然界が復元されるんですね。

この1000年間続く素晴らしい千年王国の中で2か所だけ、実に忌まわしい場所があります。**バビロンとエドム**。ここは**悪霊**どもの住みかになります。住みかというよりも牢獄なんですよ。悪霊たちが表に出て来れないように、バビロンの地下に閉じ込められ、封印されてしまう。2か所の内の1つが大バビロンなんですね。**汚れた霊は悪霊。汚れた鳥・汚れた憎むべき獣は悪霊の言い換えです。**

この箇所について、旧約聖書でも預言されているので見ておきましょう。

イザヤ書 13章

19 こうして、諸王国の誉れ、カルデア人の輝かしい誇りであるバビロンは、神がソドム、ゴモラを滅ぼしたときのようになる。

完全廃墟になる。その後どうなるでしょう。

20 そこには永久に住む者もなく、代々にわたり、住みつく者もない

人間が永久に住まない場所になる。

アラビア人もそこには天幕を張らず、牧者たちもそこに群れを伏させない。

荒野生活に慣れているあらゆる人々も、そこには寄り付かない。だれもそこに行かない。

では、だれがそこに居るのか。代わりに居るものたちのリストがあります。

21 そこには荒野の獣が伏し、彼らの家々には、みみずくがあふれる。そこには、だちょうも住み、雄やぎがそこで飛び跳ねる。

22 山犬はその砦で、ジャッカルは豪華な宮殿でほえ交わす。その時が来るのは近く、その日はもう延ばされることはない。

荒野の獣・みみずく・だちょう・雄やぎ・山犬・ジャッカル。獣と鳥。これは**悪霊**たちのこと。

雄やぎはヘブライ語でセイリーム。複数形です。セイリームは雄やぎと訳すこともできますが、本来の意味は“毛深いもの”。ヘブル世界では**悪霊**を意味する言葉なんですね。

ユダヤ人には、悪霊は雄やぎの姿をしているという概念がありました。

というのは、聖書全体を見ると、悪霊が動物の姿になぞらえて紹介されている箇所があるんです。

黙示録 9 章もそうですね。地上には存在しない色んな動物の一部の特徴が、一つの生き物の中にミックスされている。鳥・獣は悪霊の描写によく用いられるんです。

ということで、**カルデア人の都・反キリスト帝国の都バビロン**は、千年王国の間、汚れた霊たちの牢獄となる。閉じ込められた場所になる。世界中が祝福を満喫している時、このバビロンは神によって、憎むべき・忌むべき場所になっている。それほどに、恐るべき反キリストの都として機能した場所だったんですね。

今回は非常に意外なことが出て来ます。よければお付き合いください。

チャンネル登録もお願いします。ではまた ごうちゃんねるでお会いしましょう。

それまで皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社 2017